９　次の文章を読んで、後の問いに答えよ。　　　〈九州大〉二〇二二年度出題

　このサヴァンナに生きる人々の生活は、荒々しい自然に対して人間がきわめて受動的にしか生きないとき、人間がひきずらなければならない悲惨を私にみせつける。だが、それとは逆に、自然に対して人間がいどみ、人間のもつある種の欲求に自然を従わせようとする努力をしゃにむにつづけたとすれば、そのゆきつく先は、世界の一部にわれわれがすでにみているように、一生土をふまず、合金ののなかでひたすら無精卵を産みつづける鶏や、植物の実としての機能をまったくうばわれた、気の毒な種子なしをつくり、大気や海を汚し、性行為を生殖からきりはなし、まもなく死ぬことがわかっている病人の、心臓の鼓動がとまらずにいる時間をただ少しでもながびかせるために、気管を切開して、最期に言いたいこともいえなくしてしまう医学を生みだすことになるのであろう。そして、Ａこうした方向への、人間の思いつめた突進は、人間のもつ欲求の一部分だけを絶対化し肥大させたいわゆる合理主義と結びついて、一層たがのはずれたものになったのであろう。だが、この土地の人々の生活をいくらかでも知ったあとでは、Ｂ私は、単純な自然・原始讃美の論には、どうしてもすることができない。自然をまもれとか、自然にかえれというようなことが、それ自体人工的な形で問題になるのは、人間がある程度自然を制御するのに成功したあとのことである。自然にうちひしがれたままの人間というのは、みじめであり、腹立たしくさえある。

　理想の楽園としてのＣ人間の「自然状態」は、実際にはおそらく過去にも存在しなかったし、現在も地上に存在しないだろう。いうまでもなく、私がいま見ているこのアフリカの一隅の人々の生活は、ヨーロッパの植民地支配に踏みにじられしぼりとられたあとの、それなりに「自然状態」からはきわめて遠いものである。しかし、アフリカの自然・歴史・社会についていま私がもっているわずかな知識と体験から考えられるかぎりでは、過去をいくらさかのぼっても、アフリカに理想郷があったとは思えないし、私の学んだかぎりでの、現代の人類学の知見も、原始状態を理想化することのむなしさを教えているようだ。私は、人類の歴史は、自然の一部でありながら自然を対象化する意志をもつようになった生物の一つの種が、悲惨な試行錯誤をかさねながら、個人の一生においても、社会全体としても、をつくして、つまり最も「人工的」に、みずからの意志で自然の理法にあらためて帰一する、その模索と努力の過程ではないかと思うことがある。人間の理想としての「自然状態」は、無気力に自然に従属した状態ではなく、また、すでにある手本をさがしてみつかるものでもなく、意志によって人間がつくりだすべきものなのであろう。

　私は、二十世紀後半のアフリカ社会を語るのに、自然と人間という対置をあまり重くみすぎたかもしれない。いまこの国の人たちの生きている生活が、半世紀あまりのフランスの植民地支配によって、どれだけふみにじられたあげくのものであるかということは、簡単には言いつくせない。文字記録をもたないこの社会の歴史を、土地の人たちの伝承を集めたり社会制度や習俗を比較しながらさぐろうとする私の仕事の過程で、植民地支配以来の白人のムチと策謀のあとは、毎日のように私の目と耳につきささってくる。鉄道・道路工事のために、あるいは白人のな家をつくる材料や食料品や、白人がアフリカから奪いとってゆく物資をはこぶために、天然資源の面で搾取される価値の乏しいこの国の、従順で辛抱づよい人たちが、近隣の、もっと搾取価値の高い植民地へ「人的資源」として、ムチで狩り出されて行ったかずかずの記憶。そのあげくの村の荒廃。入れかわりに流しこまれた安物の商品と貨幣経済。そして、思考や感性の根底から従順なにつくりかえてゆくような、フランス語の義務教育。

　どうすればいいのか――この国の心ある人たちがたえず考えつづけてきた　Ｄこの難問に、私が安直な答えを出せるはずもない。よそ者の私が、日頃土地の人、政府の人や、技術援助の外人などと話して思うのは、フランスの制度や技術、物の考え方から言語まで見習うことをやめて、皮相な「近代化」（それはもう時代おくれでもある）をいそがずに、遠まわりなようでも、生活の最基層部から、祖先以来の生活様式や技術を再検討していったらどんなものかとか、農業など生活技術の検討を、現地語を用いて、成人もふくめて、さかんにする気運はつくれないものだろうかとか、植民地分割の都合できめられたいまの国境を絶対化せずに、長い目でみてもっと必然性のあるアフリカ再統合の可能性を、近隣のアフリカ諸国と協力して探れないものか、などといったことだが、こうしたの理想論は、現実の政治情勢や、あらゆる面で形をかえて存続しているフランスののために、かんたんには実現しそうもない。ただ、在来の生活様式・技術の再検討、その基礎資料のなどは、Ｅ私の学んだ人類学の知識と、私がよそ者であるというとりえを活かして、近い将来に、いま企画している条件がととのえば、土地の人に協力して実際にやってみようと思っていることの一つだ。これまでの外国の技術援助をみても、農業や生活の改良で、外から何か立派なものをもちこんで土地の人に「与え」たり、「教え」ようとしたものは、の使用、土壌改良、大貯水池の建設など、たいていは根を深くはらない花のようなものに終っている。外来者は土地の人に「教える」のではなく、むしろ土地の人の知識や経験の深い意味を「学んで」、それを成熟させる触媒になることが大切なのではないだろうか。そのような体験を通じて、外来者の方も、彼自身の社会を考えなおす力をたくわえることができるのかもしれない。

　とはいうものの、いまの私にとっては、日々の体験のなかで、Ｆ頭からざぶりとかぶるなまの感情の前に、抽象的な思考にみちびかれた確信などというものが、いかにかげのうすいものでしかないかを思い知らされることの方が多い。知りあいの村の人に頼まれて、病人を私の小型トラックでテンコドゴの病院に運ぶときだけにはたしかに――この土地に多い髄膜炎で重体だったある男の子は、この私設救急車があったために、一命をとりとめた――それが全体からみればとるにたらぬ気休めにすぎないことがわかっていても、私は、ささやかな充足感のようなものを感じる……。

（川田順造『から　アフリカで考える』による。ただし、問題作成の上から本文の一部を改めた。）

問１　傍線部Ａ「こうした方向への、人間の思いつめた突進」とあるが、その前にある様々な具体例を通じて、著者はどのようなことを言おうとしているのか、説明せよ。

問２　傍線部Ｂ「私は、単純な自然・原始讃美の論には、どうしても与することができない」とあるが、なぜ著者はこのように考えるのか、説明せよ。

 ◎問３　傍線部Ｃ「人間の「自然状態」」とあるが、著者は、これがどのようなものであるべきだと考えているか、説明せよ。

問４　傍線部Ｄ「この難問」とあるが、どのようなことか、具体的に説明せよ。

問５　傍線部Ｅ「私の学んだ人類学の知識と、私がよそ者であるというとりえを活かし」とあるが、「とりえ」というのは具体的にどのようなことか、説明せよ。

問６　傍線部Ｆ「頭からざぶりとかぶるなまの感情」とあるが、どのような感情か、具体的に説明せよ。

【解答と採点基準】

問１　Ａ人間が自らのもつさまざまな欲求に自然を従わせようと Ｂひたすら努力を続けた結果、Ｃ自然の本質は歪められ、Ｄ生命の中にも本来の自然な姿とはかけ離れた状態になっているものが現れてきたということ。

Ａと、ＣまたはＤがなければ全体０。

Ａ＝３〔「人間の欲求に自然を従わせる」という内容は必須。〕

Ｂ＝２〔「ひたすら」など、努力の強さを表す表現がなければ減点１。〕

Ｃ＝２〔「自然」についての言及が必須。〕

Ｄ＝３〔「生命」についての言及が必須。〕

問２　Ａ自然を無条件に讃美できるのは、Ｂある程度人間が自然を制御し得た後のことであり、Ｃ荒々しい自然にうちひしがれたままの受動的な人間の悲惨さをよく知る著者にとっては、Ｄ違和感が残るから。

Ｃがなければ全体０。

Ａ＝２〔「無条件に」「ただ単に」などの表現がなければ減点１。〕

Ｂ＝３〔「人間が自然を制御した後」という内容は必須。「ある程度」がなければ減点１。〕

Ｃ＝３〔「自然にうちひしがれた人間の悲惨さ」という意味内容であれば別表現でも可。「荒々しい」「受動的」という表現がなければそれぞれ減点１。〕

Ｄ＝２〔「違和感」でなくても、著者の否定的感情が説明できていれば可。〕

問３　Ａ自然の一部でありながら自然を対象化する意志を持つようになった人間が、Ｂ悲惨な試行錯誤を重ねながらも叡知をつくし、Ｃ自らの意志で、改めて自然の法則に従って生きようとしてつくりだすもの。

Ｃがなければ全体０。

Ａ＝３〔「自然の一部でありながら自然を対象化する人間」という内容は必須。「意志」という表現がなければ減点１。〕

Ｂ＝３〔「悲惨な」「試行錯誤」「叡知をつくす」という表現がなければそれぞれ減点１。〕

Ｃ＝４〔「自らの意志でつくりだす」という内容は必須。「改めて」という表現がなければ減点１。「自然の法則に従って生きようとする」という内容がなければ減点２。〕

問４　Ａフランスの植民地支配のなかで、物的資源のみならず人的資源も搾取されたことによって生じた村の荒廃や、安物の商品と貨幣経済の導入、フランス語の義務教育化による人々の思考や感性の根本的改変などが進み、アフリカ社会は踏みにじられてきたが、Ｂこの悲惨な現状からどうすれば脱却できるかという問題。

Ａ・Ｂがそろっていなければ全体０。

Ａ＝７〔「フランスの植民地支配によりアフリカ社会が踏みにじられてきた」という内容は必須。「物的資源（天然資源）の搾取」「人的資源の搾取による村の荒廃」「安物の商品」「貨幣経済」「フランス語の義務教育化」「思考や感性の根本的改変」という要素がなければそれぞれ減点１。〕

Ｂ＝３〔「どうすればよいのか」という内容が必須。「悲惨な現状」「脱却」という内容がなければそれぞれ減点１。〕

問５　Ａ著者が外来の研究者であるがゆえに、Ｂその土地の人が当たり前で意識化できていない知識や経験の深い意味をＣ客観的に把握し、Ｄそれを成熟させるきっかけとなりうるかもしれないということ。

Ｂ・Ｄがなければ全体０。

Ａ＝２〔「外来の」は必須。「研究者」という内容がなければ減点１。〕

Ｂ＝３〔「その土地の人の知識や経験の深い意味」は必須。「当たり前で意識化できていない」がなければ減点１。〕

Ｃ＝２〔「客観的に把握し」「科学的に捉え」など、人類学者としての「学び」の内容が説明されていれば可。〕

Ｄ＝３〔「成熟させる」という内容は必須。「きっかけ」「契機」など、「触媒」の言い換えがなければ減点１。〕

問６　Ａ自分が小型トラックを運転して病気の子を病院に運び、一命を取り留めた時に感じたささやかな充足感に見られるような、Ｂ抽象的思考とはおよそ縁のない、Ｃ厳しい現実の中での具体的な行為によってのみもたらされる、Ｄ直接的で切実な感情。

Ａ・Ｃ・Ｄがなければ全体０。

Ａ＝４〔具体的なエピソードが書かれていることが必須。「ささやかな充足感」という表現がなければ減点２。〕

Ｂ＝２〔「抽象的思考」との距離感が書かれていることが必須。〕

Ｃ＝２〔「具体的な行為によってのみもたらされる」という内容は必須。「厳しい現実の中で」という内容がなければ減点１。〕

Ｄ＝２〔「直接的」「切実」という意味内容がなければそれぞれ減点１。〕